

中高年オートキャンプ参加者の参加動機と満足度について

垂水 健悟 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 中野 友博

キーワード: オートキャンプ, 中高年, 参加動機, 満足度

1. 諸言

少子化問題に伴い、高齢化社会へと急速に変化している社会において、高齢者人口の増加が予想される。既に中高年の余暇活動の一貫として登山が注目されており、過去の研究から中高年の登山参加動機の傾向などが明らかにされている(坂本, 1986)。オートキャンプにおいても中高年の余暇活動として理想的であると思われる。

そこで本研究では、中高年オートキャンプ参加者の参加動機、満足度を明らかにし、その特性を理解することで中高年の余暇活動の一貫として、オートキャンプ活動の更なる発展に寄与することを目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】被験者は、2014年9月11日～9月13日、茨城県塩原グリーンビレッジオートキャンプ場にて、2泊3日で行われたシニア・キャンパークラブの活動に参加した参加者23名及び、2014年10月5日、11日、19日に滋賀県マイアミ浜オートキャンプ場、家族旅行村ピラデスト今津を利用していた中高齢者42名の計65名を対象とした。

【調査方法】調査用紙は、Beard and Ragheb(1983)が作成したLeisure Motivation ScaleおよびLeisure Satisfaction Scaleを坂本(1986)が和訳し作成したもの(参加動機31項目、満足度24項目)を用い、いずれも5段階評定尺度により回答を求めた。また被験者の個人属性を把握するため、性別、年齢層、オートキャンプ歴等を問う調査項目を付け加えた。

3. 結果と考察

1) 参加動機の男女別比較

参加動機の質問項目における平均値を、男女間で対応のないt検定を行った結果、「(8)時おり一人になることが好きだから」、「(10)親しい友人と交友関係を深めるため」、「(28)ほかの人から尊敬されるようなことをしてみたい」の3項目に有意な差が見られ、いずれも男性の方が高かった。

2) 参加動機の年代別比較

男女の比較同様、30代40代と60代70代に分け、それぞれの平均値について、対応のないt検定を行った結果、「(16)精神的にくつろぐため」、「(20)日々の生活の忙しさやあわただしさからの

がれるため」、「(30)ストレスや緊張をやわらげるため」など12項目で有意な差が見られ、いずれも30代40代の方が高かった。抽出した因子について年代別の比較を行った結果、「休息・休養因子」において特に優位な差が見られ、30代40代の方が高かった。

3) 満足度の男女別比較

満足度の質問項目における平均値について、対応のないt検定をおこなった結果、「(1)興味があっておもしろい」、「(4)くつろいだ気分になる」の2項目に有意な差が見られ、いずれも男性の方が高かった。

4) 満足度の年代別比較

参加動機同様、30代40代と60代70代に分け、それぞれの平均値について対応のないt検定を行った結果、「(7)自信を与えてくれる」、「(19)色々な技能と能力が発揮できる」など11項目で有意な差が見られ、いずれも30代40代の方が高かった。抽出した因子について年代別の比較を行った結果、「自己啓発因子」、「気分転換因子」において有意な差が見られ、いずれも30代40代の方が高かった。

4. まとめ

以上の結果から、女性と比較して男性は、他人から尊敬されたいという動機から一人もしくは親しい友人と個人の趣向によって気軽にオートキャンプ行っており、オートキャンプを通して日常生活の疲れを癒していると考えられる。また、年代別の比較では、就労の有無や家族特性によって30代40代の中年層と60代70代の高年層の間で差が見られ、中年層は、働きながら休日を利用して家族連れでオートキャンプを行なう人が多いため、休息やリラクセスといった動機でオートキャンプを行ない、家族を先導するため、これまでの経験をオートキャンプに活かしていることや気分転換をすることに満足していると考えられる。

引用・参考文献

- 公益財団法人日本生産性本部 (2013) : レジャー白書 2013, 日本生産性本部, p.182
- 坂本昭裕 (1986) : 中高年者の登山に対する動機と満足, 筑波大学体育専門学群卒業研究
- 社団法人日本オートキャンプ協会 (2013) : オートキャンプ白書 2013, 日本オートキャンプ協会, p.73